

# ぶらり

なんたん 18

## たいしゃくてん ～京都帝釋天～

### 願いを鐘に、祈る心が響く京都帝釋天



▲勢ぞろいした四天王に守られる帝釋天の宮殿

「庚申さん」として親しまれる京都帝釋天。宝亀十一年（七八〇）、八木町船枝に和氣清磨公によって開創され、千二百年の歴史を誇ります。

帝釋天堂（京都府指定文化財）へと続く七百段の参道には、百八つの「願いの鐘」が並んでいます。一つ一つに願いを込めて鐘を打ち鳴らすと、思いをのせた音色が山に、心に響き渡ります。

ご本尊の帝釋天は、およそ三十三年に一度開帳される秘仏で、平成四年に宮殿が開かれて以来、その姿はひっそりと扉の中に納められています。



▲古色を帯びた本堂の前には、法輪の輪があります

帝釋天の両脇に静かな憤怒の形相で立つのは、増長天（市指定文化財）と多聞天（同上）。かつての大火で失われた持国天、広目天の二像も、昨年新たに完成し、四天王が勢ぞろいして四方を守っています。

毎年、大みそかの「除夜の鐘」には、夜十一時から参道の鐘にお灯明がともり、健康になれるという法輪の「火の輪くぐり」もできます。また、初詣でや春の大祭、庚申の日にも、多くの参拝者が帝釋天に願いを届けに訪れます。

### ぶらり案内



寺務所／福寿寺  
ご住職 鈴木 春海 さん

京都帝釋天には、地元船枝の30数軒で作る「講社」があり、雨の日も雪の日も毎日欠かさずおにぎりや野菜などの御膳が供えられるそうです。「希薄になりつつある地域社会のつながりが、ここ船枝では帝釋天を中心にしっかりと結ばれています。帝釋天をお守りするという熱心な心が、親から子へ、子から孫へと何百年も受け継がれて、人々をつないでいるのでしょう」と、鈴木春海ご住職。新たに参道につるす小型の「希の鐘」の設置にも現在取り組まれているとのこと。

参道や境内を歩くと人々の願いや思いが伝わってきます。また、「寅さんの鐘」や、「見ざる言わざる聞かざる」の三猿などを見つける楽しさもあります。

#### —京都帝釋天 願いの届け方—

##### ◇よろこびの鐘

「願いの鐘」百八つを打った後、境内の大つり鐘をつきます。

##### ◇厄難、不運飛ばし鶴

白い折り鶴に病や悩み、不運を乗せて吹き飛ばします。

##### ◇小石結び

二個の小石（恋し）を赤い糸でしっかりと結び、恋、親子、友情の縁を結びます。



##### ◇仏足石

帝釋天の足跡を刻んだ石に、いつまでも健康で歩けますようにと祈ります。

##### ◇親子地藏尊

子のために荒波にのまれようとすする親に、時遅しと手を合わせる子の姿。供養や、親子の幸せを祈ります。

##### ◇安産の鐘

安産や、子の健康を願って、母の鐘（大）、子の鐘（小）を打ちます。

